

松原の救護列車を伝える会

新作アニメ

「わすれられないきみへ」

お披露目のご案内

同時上演

朗読劇

「戦時下の学校校舎に被爆者を偲ぶ」



松原の救護列車を伝える会では、令和6年度の事業として新作ショートアニメーションを企画・制作しました。今回、この作品を松原小学校のご協力のもと、「松っ子の心を見つめる教育習週間」の公開授業にてお披露目する運びとなりましたので、松原地域の皆様にもぜひご覧いただきたくご案内いたします。松原小学校の児童の皆さんとともに、平和について考えるひとときとなりましたら、幸いです。

【主催】大村市立松原小学校

【企画】松原の救護列車を伝える会

【制作】武蔵野美術大学映像学科



内容

1945年8月9日長崎市に原子爆弾が投下され負傷した怪我人が、救援列車により道ノ尾駅から早岐駅の沿線上の各駅に運ばれました。松原駅で降ろされた怪我人は、松原小学校（旧尋常小学校）に運ばれ、松原住民による救護活動が行われました。その際、救護活動の指揮をとっていた、衛生兵福地勝美さんの証言を基に作成したアニメーションです。

「救護活動で忙しい中、女の子を連れた女性が救護所を訪ねてきた。」・・・その子は何をしに来たのか。福地さんが亡くなる寸前まで忘れず思い出していた事とは。。。

場所

松原小学校体育館

日時

2024年6月29日（土）
午前 9：30～10：30

駐車場

小学校保護者の方→松原小学校運動場
松原地域の方→北部グラウンド駐車場